

# A2-13 AISol スタートアップの紹介

玉置広志 (AIST Solutions)

株式会社 AIST Solutions (AISol) は、2023 年度 4 月に国立研究開発法人産業技術総合研究所 (産総研) 技術の社会実装を加速する目的で設立され、①産総研技術資産提供、民間事業者との共同研究コーディネーション、②研究成果の社会実装、③社会解決型のバリューチェーン構築、④スタートアップ事業創出の 4 つの事業を行っている。

産総研におけるベンチャー/スタートアップ支援の歴史は長く、産総研設立の翌年である 2002 年に他の研究機関に先駆けて開始された。産総研ベンチャー支援制度のもと、20 年間で 155 社の産総研技術をコアに活動するベンチャーを創出したが、Exit (企業の創業者や経営者、出資者が保有する株式を売却し、投資した資金を回収した) したのは IPO (Initial Public Offering、新規株式公開) が 2 社、M&A (Mergers and Acquisitions、合併と買収) が 4 社と少なかった。

日本政府が 2022 年を「スタートアップ創出元年」と位置付け (スタートアップ: イノベーションと革新性にフォーカスし、短期間で急成長を目指す企業)、ユニコーン企業 (評価額が 10 億ドル以上、設立 10 年以内の非上場のスタートアップ) の創出を目標にしたことを踏まえて、AISol のスタートアップ事業創出では、産総研グループと関連するスタートアップからユニコーン企業を創出することを方針とし、産総研ベンチャー支援制度と全く異なる AISol スタートアップ認定制度を立ち上げた。本認定制度の特徴は下記である。

- 12 項目のデューデリジェンス (DD) によるスタートアップの発掘; AISol が独自に定めた 12 の評価項目 (右表参照) に従って DD を実施し、スタートアップの発掘を行っている。
- ユニコーン化に向けた手厚い支援; スタートアップの事業段階にあわせて、支援フェーズを「事業構想フェーズ」、「育成フェーズ」、「認定事業フェーズ」の 3 つに区分し、フェーズに合わせた段階的な支援を実施している。「認定事業フェーズ」では、AISol のマーケティング機能を生かしたマーケティング支援や産総研の研究施設・装置利用の優遇のみならず、必要であれば出資も行っている。「認定事業フェーズ」に相当するスタートアップについては、産総研グループにおいて「AISol スタートアップ」と認定し、外部公表している。2024 年 7 月現在、「AISol スタートアップ」には 5 社が認定され、今回の企画公演では、その中の 1 社である「株式会社 iFactory」について紹介する。

12 の評価項目

項目
1 社会課題/改革度
2 提供する価値
3 競争優位性
4 独自性
5 技術/特許
6 市場規模
7 実現可能性 実現スケジュール
8 財務状況/収益性
9 マネジメント人材
10 遂行リスク
11 ビジネスモデル
12 AISTとのシナジー

AISol スタートアップ支援の仕組み



## PROFILE

玉置広志 (株式会社 AIST Solutions プロデュース事業本部 スタートアップ部長)

- ① 富士フイルム (株) にて写真フイルム開発に従事した後、2000 年より新規事業開発、Open Innovation 推進業務に従事。2024/2 より現職、
- ② 産総研発のスタートアップ企業の成長を加速するアクセラレータ部門統括、
- ③ 「Hermes Award for Innovation」において主導した富士フイルム Open Innovation チームが「Best Strategy of Innovation」を受賞、
- ⑤ Hiroshi.tamaoki@aist-solutions.co.jp